

梅の里社会人野球大会 20年の歩み



梅の里社会人野球大会実行委員会

目 次

大会長あいさつ	1
みなべ町長 山田五良	
20年間を振り返って	
熱意が大会実現“陸の孤島”清川球場	2
大会副会長 紀伊民報社顧問 谷川 宗一	
第20回梅の里社会人野球大会を迎えて	4
大会副会長 和歌山放送紀南支社長 上田 修司	
梅の里社会人野球大会20周年によせて	5
大会選考委員長 古久保規夫	
梅の里社会人野球20周年を迎えて	7
大会審判長 古谷 利具	
梅の里社会人軟式野球大会20周年を迎えて	8
和歌山県軟式野球連盟西牟婁支部長 山本 紳次	
梅の里社会人野球第20回記念大会	9
第1回～第5回大会事務局 林 康博	
梅の里社会人野球大会を振り返って	12
第6回～第12回大会事務局 長瀬 一也	
地元代表のことば	13
清川区代表 中家 克己	
清川区婦人代表 中本エミ子	
過去大会結果	
歴代優勝チーム コメント	14
第1回～第20回までのトーナメント表と優勝チームと個人賞	20



梅の里社会人野球大会実行委員会会長
みなべ町長 山田五良

ごあいさつ

梅の里社会人野球大会は今秋で 20 回目を迎えることができました。平成元年（1989）1 月に南部川村清川に山村振興対策の一環として野球場を建設し、コケラ落としに高校野球の名門箕島高校と南部高校を招待して、オープン試合をやっていただきました。

以来記念事業として、山村振興の主旨に則り紀南地方の社会人野球大会を開催することとなったのです。これには紀伊民報社と和歌山放送が賛同してくださり主催者に参画いただくことになり、田辺西牟婁及び南部郷軟式野球連盟のご協力によって回を重ねる毎に盛大になり、技術・マナー等内容も充実してきました。また、審判団も充実され名実共にハイグレードの大会になってきました。

山村地域の活性化を目指したこの大会が、関係者のみなさんのご努力によりその成果を見るに至ったことは誠に嬉しい次第であり、重ねて関係各位に深く感謝申し上げます。

地元清川地区のみなさんもこの大会の主旨を理解され、運営に大変なご協力いただいることにも厚くお礼申し上げます。

この 20 回目を機にこれからもみなさん方のご努力によって、一層充実した大会に発展することを期待とお願い申し上げます。

ありがとうございました。

平成 20 年 9 月

20年を振り返って



梅の里社会人野球大会実行委員会副会長
紀伊民報社 顧問 谷川 宗一

熱意が大会実現 “陸の孤島” 清川球場

あれから20年。

当時、“陸の孤島”といわれた南部川村清川（旧清川村）に、両翼93メートルと、東京後樂園球場の87.8メートルを上回る本格的な球場が誕生したのは、20年前の平成元年（1989年）3月15日だった。観客席はバックネット裏だけだが、それでも後に見事なナイター設備と村の手で完備した。バックスクリーンともいべき背後の山は斜面に切り拓かれ、植えた梅の木と見事に成長し球場を見守っている。

球場の広さは9667平方メートル（3千坪弱）両翼93メートル（甲子園は96メートル）、中堅108.5メートル（同120メートル）総工費4725万円、施工は奥アンツーカー（大阪）。ここで特筆すべきは村の要請で陸上自衛隊が、この奥地に駐屯してブルドーザーで山を削り平地するなどの難工事をやってくれたことだ。いわゆる「緑の下」の貢献であり、山田村長の隠れた政治力の反映でもある。

聞けば自衛隊工作隊本部へ、何度も何度も陳情に足を運び、東京へも陳情に。自衛隊の手でやってもらったお蔭で、工事費は半分で済んだという。

梅の里野球実現には陰の人がいる。のち上南部中学校長の古久保規夫さんが積極的に動いた。全国でも珍しい、村と新聞社の共同主催による大会実現だ（当初和歌山放送後援、のち主催に加わり優勝戦実況放送で好評）。当時紀伊民報に強力なライバル紙が登場していたが、あえて紀伊民報と共催に踏み切っている。それだけに紙面ではそれに応える力の入れようだった。

また、古久保さんは議会に対しても積極的に動いている。この人は独特のねばりと積極性があり、だれもがその熱意に動かされた。

それに審判団が協力してくれたこと。古谷利具審判長を先頭にさらに地元清川地区の人たちの協力だった。

球場開きには甲子園の覇者箕島高校ナインを迎え、地元南部高校ナインの熱闘で開幕を飾った。注目の第1回大会には山田村長のあいさつをはじめ寺本村会議長、森清川区長の歓迎の祝辞、谷川紀伊民報編集長の試球でプレボールし、各地区代表12チームが熱戦を展開した。

野球を通じ町と山間部の交流を目指した新球場の誕生だが、これを機に出場選手と地元の若い女性の交流も期待された。カーブや狭い道の多かった国道424号も年を追って改修されて行く。

年1回とはいえ野球を通じての交流の成果は大きく、上富田町などにも大きな刺激を与え、いま球場もでき清川と同じ社会人野球や、プロ野球巨人・阪神2軍戦まで実現しているほどだ。

梅の里野球もあと30年は続いてほしいと願う。

20回大会にあたり今回まで尽力して頂いた山田町長、古久保先生、審判団、議会、審判団や歴代事務局の方々に御礼を申し上げたい。ご苦労さまでした。

熱球譜こだます谷間
ゆりの花



梅の里社会人野球大会実行委員会副会長
和歌山放送 紀南支社長 上田 修司

第20回梅の里社会人野球大会を迎えて

平成元年10月29日午前9時、南部川村最奥の山村、「清川」の谷あいにはプレーボールのコールがこだましました。ここに新たな球史の幕が切って落とされた。梅の里社会人野球大会誕生の瞬間であった。当時田辺支局に駐在していたのは渡辺和俊アナウンサーで、11月5日の南部バッファローズと紀南農協の決勝戦は、今では懐かしいオープンテープの「デンスケ」をかついでの録音取材であった。

翌年平成2年の第2回大会の甲志クラブと、べんけいの決勝戦は9月24日の秋分の日に行われたが、この日はたまたま月曜日で田辺スタジオからの放送がある日、それなら試合経過を清川球場から生放送で伝えようということになったが、問題はどんな方法で放送するかであった。携帯電話も普及していない時代、あっても清川は通話エリア外。結局、球場横にある備長炭振興館の電話の子機を使って実施することになった。

レポート形式で完全実況とはいかなかったが、渡辺アナウンサーがバックネット裏で子機の受話器に向かっての生放送と相成った次第であるが、この生レポートの好評が完全実況の中継への伏線となったことは間違いない。

そして平成3年、第3回大会を迎えるわけであるが、当時、和歌山放送の自社制作の野球中継といえば、夏の高校野球と住友金属野球団の都市対抗野球、社会人野球選手権が定盤であり、地方のしかも一般の野球の実況中継は当時としては画期的だったように思う。そんなわけでこの年からラジオの完全実況中継が開始された。

実況はベテランの加角正志アナウンサーであった。これにより紀伊民報での幅広い報道とも相まって、大会の格、選手の意欲も大いに高まったように思う。

20回はあくまで通過点であり、30回、さらに50回と回を重ね、更なる大会の発展を心から願う次第である。



梅の里社会人野球大会選考委員長
古久保 規夫

梅の里社会人野球大会 20 周年によせて

梅の里社会人野球大会は平成元年 10 月 29 日（日）第 1 回大会が完成されたばかりの清川球場で開催された。主催は南部川村と紀伊民報社 後援は和歌山放送、その後 13 回大会から主催に加わる。

南部町は 2 チーム 印南町 1 チーム 西牟婁田辺 5 チーム 竜神 1 チーム 南部川 3 チーム合計 12 チームが参加した。サブグラウンドは始めは西本庄広場、平成 2 年に高城中学校が新築されグラウンドも広くなり移る。平成 4 年には共和球場が完成して使用する。

開会式は谷川紀伊民報編集長の開会宣言に続き、山田村長の挨拶 寺本議会議長 清川森区長 古谷審判長の注意に続いて、地元清川カープ市井主将が選手宣誓を行った。

梅の里社会人野球第 1 試合は南部町のコンドルス対田辺球友クラブの対戦で幕があがった。始球式は谷川編集長が行った。古谷主審のプレイのコールが秋空の球場に響きわたった。この地方で社会人野球を支援するため、自治体を中心になった大会の最初である。

地元清川区は婦人会が選手の接待に協力した。球場外での交流も盛んに行われた。決勝戦は 11 月 5 日（日）に行われた。優勝南部バッファローズ、準優勝紀南農協が晴れの舞台に立った。

その後和歌山放送が優勝戦の実況中継を行い、大会は一段と盛り上がり、社会人チームの憧れの大会となる。

第 10 回記念大会は 24 チームが参加して盛大に開催された。

平成 16 年には県下で最初に町村合併がおこなわれた。10 月南部町と南部川村が合併して「みなべ町」が誕生する。協議の結果、大会は継続されることになった。町長には山田五良さんが就任した。

いよいよ 20 回記念大会が開催される。みなさんの努力でここまできたのだ。当時を思い起こせば、柿落としには、清川球場は硬式野球も出来るので、南部高校と箕島高校の招待試合をすることが決まった。その後中学校野球大会の案も出たが、社会人の野球を支援している自治体は近隣に見当たらなかったことから、梅の里社会人野球大会として行うことになった。

最初のころは、審判を村内で賄うことができなかった。田辺の連盟にお願いした。今で

は古谷利具審判長の努力で立派な審判団が整った。又選手のマナーも十分でなかった。田辺の連盟でマナーの良いと思われる甲志クラブに参加をお願いした。回を重ねるにつれて、ユニホーム姿もりりしくなった。参加選手の中にはプロ野球に認められる力量を持つ者も出てきた。道路事情も改善された。

20 回大会を迎えて、これまで協力 努力していただいた関係者に感謝したい。大会がこの地方のスポーツと文化の向上に寄与することを希望したい。そして活力ある地域づくりの一助になればと心から願っています。



梅の里審判団 審判長
古谷 利具

梅の里社会人野球 20 周年を迎えて

審判長として、19 回を振り返って、平成元年 10 月に第 1 回大会が行われ、早いものでもう 20 周年を迎えようとしています。最初の開催にあたっては当時の関係者の皆様は色々なご苦労があった事と思います。まず、関係者の皆様方にお礼を申し上げます。

私にも開催にあたり審判の依頼がありました。これは大変な役割が回って来たなと思ひしや、いやこんな大きな立派な大会を開催していただければ村（当時南部川村）の若い人達のためにも大変良い事でもあると思ひ微力ではありますが引き受ける事としました。

最初は、審判員の人数も少なく、田辺の方へも墨審の協力をお願いして進行していまました。回を重ねるうちに人材を集め審判員の講習会や勉強会を開いて審判員の養成に努め、第 10 回大会の頃には念願でありました自前の「梅の里審判団」が誕生し、プレーヤーにはプレーに専念していただけるようになりました。

振り返れば当時の地元チームはプレーはもとより服装、マナー等、田辺西牟婁のチームの足元にも及ばず恥ずかしいものでした。その後、徐々に審判団の向上と共に地元チームの技術やマナーのレベルのアップへとつながっていき、今では各チームとも、何処へ行っても恥ずかしくないくらい成長してくれました。

ただ今、みなべ軟式野球連盟への登録チーム数も 21 チームとなっています。

この梅の里社会人野球大会のおかげで、南部郷の野球の内容が大きく変わり成長出来たと思っています。

益々、南部郷の野球発展と青少年育成のために回を重ねていただきたいとお願い申し上げます。



和歌山県軟式野球連盟西牟婁支部

支部長 山本 紳次

梅の里社会人軟式野球大会 20周年を迎えて

この度、梅の里社会人軟式野球大会が20周年を迎えられたことに心からお喜び申し上げます。

本大会は、地域の枠を超えて野球を愛する者が集うことが出来る大会であり、これまで西牟婁支部の多くのチームが参加させていただき、試合を通じて多くの仲間が生まれ大変喜んでいきます。当支部でも、梅の里社会人軟式野球大会に参加を希望するチームが年々増加しています。

これもひとえに、みなべ町のご支援はもとより、地域の皆様のご協力により今日を迎えられたものであり、野球に携わる者として敬意と感謝を申し上げます。

今後も、地域を代表する大会として30周年・40周年と更なる発展をされます事を心からお願いいたします。



梅の里社会人野球大会 第1回～第5回大会事務局
みなべ町役場 林 康博

梅の里社会人野球大会を振り返って

「梅の里社会人野球第20回記念大会」おめでとうございます。

今から20年前の平成元年4月、私は、御坊市にある日高農業共済組合への出向辞令を解かれ、1年6ヵ月ぶりに南部川村に復帰し、教育委員会社会体育係に配属されました。昭和52年に職員として採用していただいてから12年間というもの、共済事業一筋であったため、人事異動は初めての事であり、新天地での仕事に対し不安で一杯でした。

そんな矢先の4月吉日、南部川村の奥地となる清川地区に野球場が竣工いたしました。村では初の野球専用の球場で、当時としては大変立派な規模を誇り、山間地には少々贅沢な施設ではないか、と誰もが感じていたのではないかと思います。私もその一人でした。その年の夏のこと、近隣市町村に清川球場の存在を、もっと知ってもらおうと、当南部郷（旧南部町・旧南部川村）とは、日頃交流の少ない西牟婁社会人野球チームや、龍神村チーム、印南町チームの参加による社会人野球大会実施案が挙がりました。

ただ、急な計画であったので各市町村地域での大会等を考慮していくと、本大会の日程が11月に入ることとなり、山間地であることから、寒かったり、日没など考えたりすると、遠方、特に西牟婁チームが参加してくれるのかどうか大変心配しました。

計画がどんどん進む中で、この大会を大々的に広報し、出場チームの志気を高める意味からも、地方紙の力をお借りしようと紀伊民報社様に協力を願い出たところ「地域の活性化になるなら」と快諾を得て、村と紀伊民報社様が主催者と決定しました。同社の担当記者（中松氏）は西牟婁地方の野球チームに精通していることから、私にとっては、大変心強い思いでありました。そうやって、主催が決定し準備を進めていく中で、この大会に「超目玉」がほしいと言うことになり、和歌山放送様に後援をお願いし、更に決勝戦をラジオ放送していただけないかということ、上田支局長にお話をもちかけたところ、地域振興の為ならということで了承を賜り、渡辺アナウンサーが実況し、村長と民報中松記者が解説席に座ることが、決定しました。そうして、山田村長、民報社谷川編集長、和歌山放送上田支局長を中心に、村体育協会や清川地区の代表者等により実行委員会が設置されました。

また、両社にこの大会の主催、後援を依頼するにあたり、当時村の社会教育主事であっ

た古久保規夫氏には大変お世話になりましたこと、この場をお借りしてお礼申し上げます。

何回かの実行委員会の話の中で、清川の婦人会有志のみなさんから、準決勝、決勝戦当日の4チームの選手や、大会スタッフ等の昼食を調理させて下さいとの、心温まる申し出がありました。といっても豪華なものではなく、おにぎりに漬け物、みそ汁といった具合でありましたが、歓迎の意を表した手作り料理ということで大会関係者にもその熱意が伝わり、大好評であったことも思い出します。

大会の賞品等についても村内の梅加工業者様を中心に、提供を依頼しました。各業者を訪問し大会趣旨を説明して、ご賛同いただきましたが、これまた無料提供(タダ)ということで、お願いするにも大変心苦しいものがありました。

更に大会には無くてはならない審判団も地元で結成しようということで、この大会の当初から審判長として中心となり、現在も続けられている古谷利具氏に協力を得ながら、村内の硬式野球経験者や村役場の野球部の皆さんにご無理をお願いして、何とか人数も揃い審判ユニホームも新調して、何回かの審判講習会も実施しました。ここでも担当者の私としては、皆さんに奉仕でお願いするものですから、それぞれの休日を割いてしまうという意味から大変恐縮の思いでありました。

こうして、趣旨を理解していただいた大勢の協力のおかげをもち、すべて手作りの野球大会の形が整いました。いよいよ、大会の日程と出場チームが決定し西牟婁地方5、印南町1、龍神村1、南部町2、南部川村3の計12チームでの第1回優勝旗争奪戦となりました。紀伊民報社での抽選会も無事終了し大会を待つだけとなったのですが、気がかりな事がひとつありました。それは、大会当日の開会式に12チームの監督、選手全員の参加を義務づけたことでありました。開会式に全員そろって参加なんていうのは、少年野球等では当たり前の話であるのですが、相手は仕事を持った社会人、それぞれの都合というものがあるだろう。私も下手なりに草野球チームに所属し経験していたのですが、南部川村の大会なんかでは全員参加なんてことは、あり得なかったからであります。「11月の清川まで、それも午前8時30分までに、ホンマに来てくれるんやろか」、正直いって大変不安でした。ちなみに、民報社の中松記者は心配せんでも絶対来るといっていました。しかし、そんな不安よりも先に、新たな問題が……。

そうです、直前に南部町の出場予定チームから電話があり、「人が揃わんさか出れなー」との連絡。「最悪や！ それも南部でてかい」そんな訳で、友人である南部町の社会体育担当の楠川氏に相談し無理をお願いして、急きょ寄せ集めのチームでカバーしていただくこととなり一安心しました。そのチームの名は「南部バッファローズ」、監督は言うまでもなく楠川氏でした。

そして、迎えた開会式当日、私の心配も吹っ飛びました。来るわ×2、ロン毛・茶髪・ひげ面・おっさん・旦那の応援にと若奥様・そのチルドレン・マネージャーそれとも選手の恋人なのかべっぴんさんも。遅刻も見受けられず、式中の私語も無く、開会宣言、選手宣誓と、やまびこがグラウンドに響き渡り、その心地よさに酔いしれている間に、開会式

が終了しました。

その後、各試合は順調に進み、決勝戦当日となり、この大会の目玉でもある和歌山放送ラジオの実況準備も整ったところで、グラウンドに目をやると、何とそこには、先程紹介した楠川氏率いる寄せ集めチームの南部バッファローズが勝ち残っているではありませんか。二度びっくりしている間に決勝戦は始まりました。そして、約束通り試合の様子が和歌山放送、渡辺アナウンサーによりラジオ放送されました。私は今まさに清川球場から電波が発せられていると思うとなんか嬉しくなってきた、わざわざグラウンドから少し離れたところまで行って、カーラジオのスイッチを入れて聞き入りニヤニヤしたものです。そうして 試合の結果、南部バッファローズが栄えある第1回大会で優勝をさらってしまったのです。

「勝負っていうものは、こんなもんなんや」と思いながら、無事閉会式を終えることとなり、「第1回梅の里社会人野球大会」の幕を閉じました。

今思えば、しんどいことも多々ありましたが、良いことも多く学びました。それは、西牟婁勢の野球マナーの良さに驚いたこと。特に、甲志クラブには大感激。ユニホームの着こなし、ファイトあるプレーにかけ声。変なヤジは一切飛ばさず、相手の好プレーをチームでたたえる。ほんまに格好ええチームやと思いました。「こんなチームを南部郷の選手にも見習ってほしい。よっしゃ、来年の大会にも絶対参加してもらおう」なんて勝手に思ったものです。

あれから20年、回を重ねること今年で20回。よくもまあ、やってこれたなど、かわってこられた皆さん、ほんとうにご苦労さんでした。

この間、この大会をきっかけとして、南部郷においては野球連盟が出来たり、本格的に審判団も結成されたりしており、野球全体が確実に向上して来ていると私は思います。

最後になりましたが今回、第20回記念大会を開催するにあたり、第1回大会から5回まで運営に携わった1人として、この記念すべき大会の成功を心よりお祈り申し上げたいと思います。ありがとうございました。

余談となりますが日高川町に絶好の「やまびこポイント」があるそうですが、この清川球場は、選手のかげ声がやまびこする、山間地ならではの味のある野球スポットであることを申し添えておきます。

追 伸

平成2年の第2回大会には、16チームが対戦し、私が密かに思いを寄せ、出場をお願いした「甲志クラブ」が優勝しました。



梅の里社会人野球大会 第6回～第12回大会事務局
みなべ町役場 長瀬一也

梅の里社会人野球大会を振り返って

この大会は、平成元年に清川球場が完成した記念に始まった大会で、私も選手として第1回より出場してきました。最初は旧南部川村のチームの上位進出は少なかったのですが、今では優勝するチームも多く出てきました。これもこの大会を通じてレベルアップしたからだと思います。

また、この大会は20回目となりましたが、第6回大会から第12回大会まで事務局を担当し先輩の築いてくれた大会を引き継ぐことになりました。私が担当するころは梅の里大会が紀南地方では、有名な大会になり出場したいチームも数多くなりました。旧南部、南部川では6チームの出場枠があり、当時は推薦で出場チームを決めていたのですが、梅の里大会がきっかけに田辺、西牟婁と南部、南部川の社会人野球の交流が活発になったことから、南部郷独自の連盟を創り各チームの資質の向上と南部郷のレベルアップ、そして梅の里大会への出場チームの決定や、本来なら南部郷のチームは日高支部に所属するはずが、田辺、西牟婁に登録するなどねじれた現象になっていましたが、平成10年4月に南部郷軟式野球連盟の発足により選手は同連盟を優先するように義務づけ、スムーズな運営が出来るようになりました。今では梅の里大会の出場をかけ各チームとも素晴らしいゲームを繰り広げ目的は達せられたと思います。

また同連盟の発足により審判団も充実しました。梅の里大会でも、なくてはならないのが審判員です。最初は選手を兼ねた人たちもたくさんいましたが、今ではボランティアにもかかわらず審判のみに進んで協力してくれる方々が固定してきたことです。今日まで大会が続けられたのとスムーズな試合が出来るのも、審判団があればこそだと思います。私も同連盟と梅の里大会の事務局を携わる中で感謝し、この場を借りてお礼を申し上げます。

今回、第20回記念大会ですが皆さんの協力のもとで、まだまだ続けられれば、私も選手としてまた裏方として頑張りたいと思います。

地元代表のことば



清川区代表 中家 克己

梅の里野球 20 周年記念大会を地元清川の一議員として心からお祝い申し上げます。

そして 20 年前に、この発案・計画を下さった山田村長、古久保先生、教育委員会のみなさんに改めて深く感謝申し上げます。同時に最初から大会の趣旨を御理解いただき協賛いただきました紀伊民報さん、和歌山放送さんに心からお礼を申し上げます。

梅の里野球の開催地、清川は当時の区長会長・森静夫さん、地元の村議・下角さん、清水さんと私の三人でした、下角さんは私より早くから積極的にかかわっていましたが、その下角さんと二人で、梅の里野球を清川球場で開催してもらえる意義と、いつまで続くのだろう...と心配もしたものでした。ところが区長会や婦人会、公民館のみなさん方、多くの地区民の力強い協力で 20 周年の記念大会へとささえてきたと思います。この間、4 年前の合併で新しい、みなべ町になりましたが、変わることなくこの大会を続行する決意をされた主催者側の皆さんに重ねて感謝し、最後になりましたが毎年の大会に遠くからも毎回参加して、山村を盛り上げていただいている選手と関係者のみなさんに厚くお礼申し上げます。50 回も 70 回もずっとこの歴史的大会が続けられますよう祈念して第 20 回記念大会へのお祝いの言葉とします。



清川区婦人代表 中本エミ子

20 周年記念大会おめでとうございます。

毎年私たちの清川の地に来て下さり、各地の方々との交流も深まり、又私たちもすこしですがお手伝い出来る事に感謝しております。

これからも、地区あげて歓迎させて頂きたいです。いつまでもこの大会が続けられる事を願っております。

歴代優勝チームコメント

第1回優勝 南部バッファローズ 楠川和夫

当時は、田辺周辺地区で早朝野球が大変盛んで、毎年4月～9月の間、毎月一回の割合で色々な大会が行われていました。私達も町内でチームを結成し、参加しておりました。そのメンバーを中心に町内在住者田辺のチームに入っているメンバー数人に声をかけチームを結成し参加しました。この大会には、地元南部川村をはじめ、田辺市・龍神村・印南町等から強豪チームばかりなので、最初は、1回戦に勝とうとは思っていませんでした。しかし、野球とはわからないもので、いざ大会が始まって見ると思った以上に投手陣の頑張りや超ファインプレーが飛び出す守り、又、好機に得点するなど最後まで、投打がかみ合い終わって見ると、第1回大会の優勝チームという結果となりチーム全員驚いた次第でございます。



あれから20年近くになり、今年が第20回記念大会という事で、月日がたつのは早いものだとつくづく思いますとともにもう一度、あの頃に帰りたい気分になりました。本記念大会に参加する各チームの皆さん方には、お互いの交流を深めて頂くと共に、楽しんで又、勝負にもこだわって本大会を盛り上げて下さい。

ご健闘祈ります！

第2回・第6回優勝 甲志クラブ 三浦輝視

梅の里社会人野球大会20回記念大会おめでとうございます。始まった当時、社会人野球は、県軟式野球連盟の支部枠の中でしか試合がなかったため、梅の里大会は支部枠を超えたチームの参加した画期的な大会だったと思います。

第1回大会以降、甲志クラブと清川カーブが練習試合を皮切りに、当時の南部川村チームと田辺・西牟婁チームの交流が行われるようになり、盛んになるにつれて、南部川チームのレベルが著しくアップしていったように感じています。



南部郷は元々野球人口が多く、素晴らしい選手を多く出している地域で、他地域のチームを知ることによって、チーム内が活性化し、梅の里大会出場を目的の一つにまとまってきたよう

に思います。その結果、多くの良いチームが出てきました。人伝に知ったところでは、甲志クラブの野球を認めてくれていたようです。西牟婁の中でも出場を希望するチームが多くあるにもかかわらず、毎年声をかけてくれたことに感謝するとともに、少しでも大会の成長に貢献できたとすれば幸せに思っています。

その大会を支えてくれたのは、主催者、実行委員会などありますが、清川区の人の協力なくしては、発展・成長はなかったと思います。その点からも地域をあげての応援や協力には頭が下がります。当時を振り返っても本当に温かく迎えてくれました。ベスト4に残った最終日、心のこもったおにぎり、梅干しのおいしさは未だに忘れることはできません。一生懸命ボールを追い掛ける気持ち、スポーツマンとしてのマナー、礼儀という面から他にはない大会になっており、今後も長く続いてほしいと思っていますが、プレーする選手の世代は変わっていきます。ぜひ、今の梅の里社会人野球大会の精神を次の世代にも受け継いでいってもらい、ますます発展することを強く願っています。



第3回・第4回優勝 エルマール坂本 坂本好志

梅の里社会人野球大会が第20回を迎えることとなり、おめでとうございます。私たち、エルマール サカモト野球部が出場していた頃は、合併前の南部川村の時で、大会役員さん・審判員さん、昼食の炊き出し等の地域の方々に大変温かく迎えていただきました。この温かい地域であるから合併後も20回を迎えられたのだと思います。

また、紀伊民報、和歌山放送の方々にも大きく取り上げていただき、この大会に出場することが目標でした。エルマール サカモト野球部は第4・5回大会で2年連続優勝させて頂きました事が一番の思い出です。現在エルマール サカモト野球部は解散していますが、当時のメンバーは今でも地域の少年野球の指導者等で野球新興のため頑張っています。これからも梅の里社会人野球大会が永くつづき、スポーツ文化の交流・振興に努めていただきたく、お願いします。

第5回優勝 関電ライオンズ 福田好巳

この度、梅の里社会人軟式野球大会が20周年を迎えられたことに心からお喜び申し上げます。

この大会には、早くから参加させていただき、第5回の大会では優勝の荣誉に輝く事ができました。それまで、試合をしていた田辺・西牟婁のチームだけでなく他の地域の方と試



合が出来、新鮮な大会であったと記憶しています。

又、当時は決勝戦の日には地元の皆さんが、昼食を用意していただき感激をいたしました。地域の方々の大会に対する、強い思いを感じました。

この大会に参加させていただいた事にお礼を申し上げます。

私たちのチームは、現在活動はしていませんが、この大会が今後も、続いて更に発展をされます事をご祈念申し上げます。

第7回優勝 清川カーブ 市井芳明

清川カーブも結成して20周年を迎え、みなべ町でも一番古いチームとなって来ました。平均年齢も少し高くなってきたので思う様なプレーが出来なくなって来ましたが、若い選手に刺激を受けながら好きな野球を楽しみたいと思っています。



第7回大会以来、優勝から遠ざかっているのではなんとかこの20回大会でもう一度、花を咲かせたいと思っています。

第8回優勝 田辺市役所 木村博充

梅の里社会人野球大会も本年で第20回を迎えますことを心からお慶び申し上げます。また、主催者のみなべ町、紀伊民報社、和歌山放送をはじめ、これまで大会運営を支えられてきた地元清川地区や関係者の皆様にお礼を申し上げます。

我が田辺市役所野球部にとっても、毎年度、その年を締めくくる最後の大会ということもあり、楽しみにしている大会でもあります。過去7回出場しており、第8回大会には念願の優勝を果たすこともできました。当然、チームが勝つことも重要ですが、田辺・西牟婁軟式野球連盟の一員として恥ずかしくないよう、礼儀やマナー、野球に対する情熱を忘れずに、「野球を楽しむ」ということを原点に置いて南部郷のみなさんとの交流も楽しみに参加しています。

今振り返って歴代の優勝チームを見てみますと、その当時の紀南地方はもとより、県の野球界を代表する強豪であり素晴らしいチームが名を連ねており、その一員に入っていることを誇りに思っていますし、今後も紀南地方から、そういったチームがたくさん出てくることを期待しています。



高校野球で時折聞かれる“野球王国和歌山”という言葉は、現在、社会人の軟式野球においては残念ながら聞かれませんが、高校や大学で活躍された選手が多い当地域ですので、近畿や

全国でも通用するチームを出すことも可能だと思います。この梅の里の大会はそういった一翼を担い、紀南の社会人野球のレベルアップに貢献していることは間違いありません。

“継続は力なり”ということわざがありますが、まさしくこの言葉通り、この大会の継続により、大会趣旨である「紀南地方の社会人野球の発展と地域社会の振興」が、野球というスポーツを通じて、今後もよりいっそう図られることを期待します。

第9回優勝 すさみクラブ 浜中誠也

11年前、第9回大会優勝？当時私は高校を卒業してすぐの19歳でした。チームは何年も公式戦で勝った事がないようなチームでした。しかし、塩崎という絶対的なエースがいましたし、チームワークも良かったので、きっかけさえあれば勝てるチームになるとは思っていました。そんな中、梅の里大会に招待され参加させて頂き、エース塩崎が全試合完投の活躍で優勝し、MVPを獲得。私も打撃賞を頂きました。この優勝でチームは盛り上がり、数年は強いチームが続きました。忘れられない大会です。

しかし、すさみ町行事と梅の里大会の日程が重なる為、その大会以降はほとんど参加できていません。今年は参加させて頂けるので、若い選手が多いので元気良くプレーし、大会を盛り上げられればと、思っています。みなべを中心とした普段対戦する事のない、紀南地方の広い地域から集まる梅の里大会は、私たちにとってとても楽しみな大会の1つです。今後とも宜しくお願い致します。

第10回優勝 晩稲パイレーツ 下浦 学

まず、最初に、本大会の運営にあたり大会事務局ならびに清川地区住民の方々に心より感謝を申し上げます。この歴史ある梅の里社会人野球大会に出場できたことを誇りに思い、2度目の優勝を目指してチーム一丸となってがんばりたいと思います。



第11回優勝 一の宮クラブ 久保賢一

10年前の優勝から、メンバーが総入れ替えの状態ですが、ようやく力をつけてきたので、優勝をねらいます。昨年の大会では、力不足で準優勝でしたが今年は投手陣がパワーアップしています。

第12回優勝 ジェイズ 尾崎純二

梅の里社会人野球大会が第20回を迎えられたことを心からお慶び申し上げます。

ジェイズは平成8年の第8回大会に初出場し合計5回参加させていただきました。平成12年の第12回大会では念願の初優勝を果たすこともできました。



この大会は決勝では、ラジオ放送があるという軟式野球では画期的な大会であり、また田辺・西牟婁の軟式野球連盟以外の他地域のチームと対戦できるとあってシーズンの締めくくりとしてとても楽しみにしていた大会でした。

1996年から活動してきたジェイズも2006年に11年間の活動に幕を閉じました。しかし、いまだに元チームメイトが一杯などで寄って野球の話になると、梅の里社会人野球大会の優勝したことが話題にあがります。それだけ印象深い大会であったと思います。

このようなすばらしい大会ですのでこれからの野球人たちにも十分楽しんでもらいたいと思います。この大会が今後も長く続いていくことを願っています。

第13回優勝 梅一番 和田佳秀

第20回記念大会開催おめでとうございます。我がチームは、第3回大会より参加させて頂き、この大会での優勝を目標に17年間野球を続けています。おかげで、第9回大会で準優勝・第13回大会で優勝・第18回大会で準優勝と過去3回決勝に進むことができ、チームの励みとなっています。この大会がなければチームも長続きしていません。この大会のおかげで地域の方々とのふれあいや町外チームとの交流という貴重な体験ができ、私たちの一生の宝物となっています。どうかこのすばらしい大会を今後も盛り上げていき、未永く続きますよう心からお祈り申し上げます。

第14回優勝 吹石重機 吹石伸也

第20回梅の里社会人野球大会開催おめでとうございます。

この大会で優勝できたことを、とてもうれしく思います。今後とも、この伝統ある大会を永く続けていけるよう心から願っています。

第17回優勝 新庄タイヤクラブ 濱本辰児

この度は、第20回梅の里社会人野球大会開催、おめでとうございます。

僕達、新庄タイヤクラブは名誉あるこの大会で優勝させて頂いた事を大変誇りに思っております。決勝戦当日には、大会実行委員会ならびに地元住民の方々におにぎりやお茶など他では味わえない心のこもった配慮をして頂いた事は今でも忘れません。このような、伝統ある素晴らしい大会を僕達の子どもの世代まで続きますよう心より願っております。

第18回優勝 達磨クラブ 北山 勉

優勝した平成18年を思い出しますと、春の口熊野社会人野球大会で初めての優勝に続いて、梅の里社会人野球大会でも初優勝を果たすことができました。史上初のW優勝を果たしたということで、チームとしても最高の1年でした。



梅の里大会の期間中は、初戦から投打がかみ合い、最優秀選手賞を受賞したエースの森本の4試合連続完封の快投やフェアプレー賞を受賞した久保を始めとする新加入の若手選手の活躍、また、打撃賞を獲得した岡本など、予想外の打線の爆発などもあり、勢いに乗って一気に優勝まで駆け上がったような気がします。準決勝、決勝は雨中の決戦となりましたが、チーム全員が最後まで集中力を切らさずに戦えたことが最大の勝因だったと思っています。

口熊野大会で優勝したときは半信半疑のような感じがありましたが、梅の里で優勝できたことは、チームにとっても大きな自信になりました。また、達磨クラブとして、龍神からの出場チームにとっても梅の里大会での優勝は、後一步のところでは届かなかった悲願の優勝でもありました。チームのメンバーはもとより、地元で野球をしている皆さんも喜んでくれ、大変うれしかったのを覚えています。

前年度優勝チームとして挑んだ昨年の大会は、優勝した赤帽清水さんと1回戦で対戦し、0-1で惜敗しました。その悔しさを忘れずに、今年も挑戦者の気持ちを持って、2度目の優勝を目指して頑張りたいと思っています。

第15回・第16回・第19回優勝 赤帽清水 横堀満久

平成15年・16年・19年と3度の優勝いたしました。強豪ぞろいの今大会で良い成績を残せた事を誇りに思います。

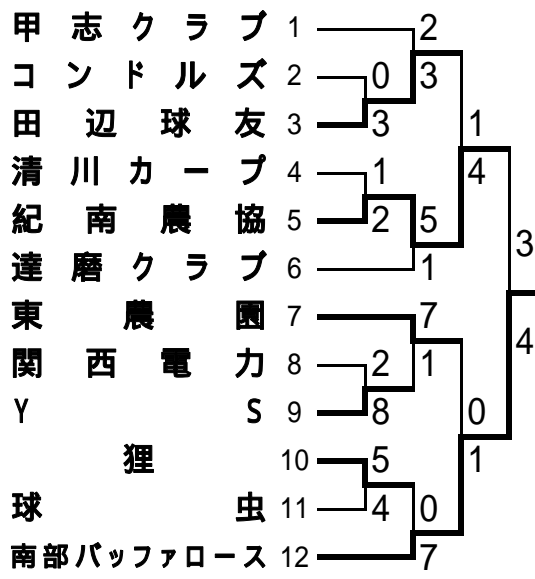
平成元年に第1回大会が開催され、今年で第20回大会を迎えられた事、関係者各位のみなさま誠におめでとうございます。その歴史ある大会に今年も出場できる事、大変光栄です。



第20回記念大会が大いに盛り上がります様、チーム一同頑張ります。

梅の里社会人野球大会

第1回



南部バッファローズ

最優秀選手賞	柳本武夫	(南)
打撃賞	坂井正幸	(南)
敢闘賞	丸山清司	(紀)
優勝監督賞	楠川和夫	(南)

第2回



甲志クラブ

最優秀選手賞	上向勝裕	(甲)
打撃賞	松葉和彦	(甲)
敢闘賞	上岡定男	(ベ)
優勝監督賞	田原裕一	(甲)

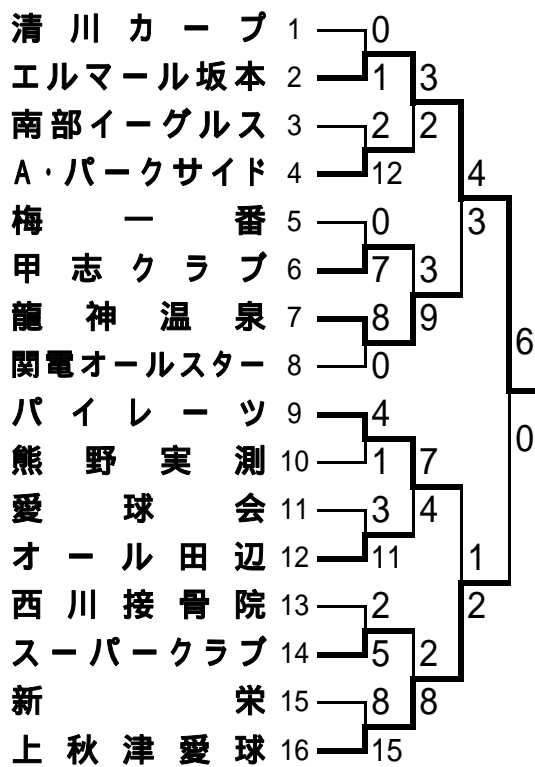
第3回



エルマール坂本

最優秀選手賞	釈 迦 戸 幸 一	(坂)
打 撃 賞	古 田 学	(坂)
敢 闘 賞	中 本 忠 男	(甲)
優勝監督賞	坂 本 好 志	(坂)

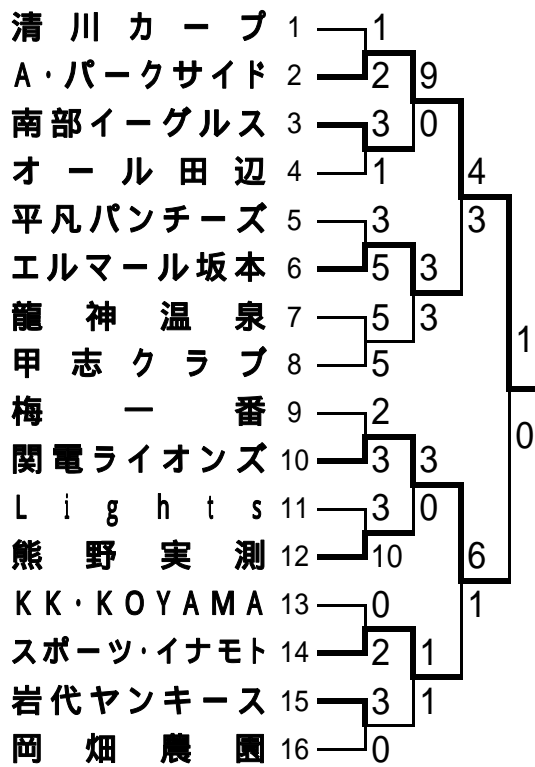
第4回



エルマール坂本

最優秀選手賞	木 村 晋	(坂)
打 撃 賞	宮 崎 繁 幸	(坂)
敢 闘 賞	田 中 悟 司	(上)
優勝監督賞	坂 本 好 志	(坂)

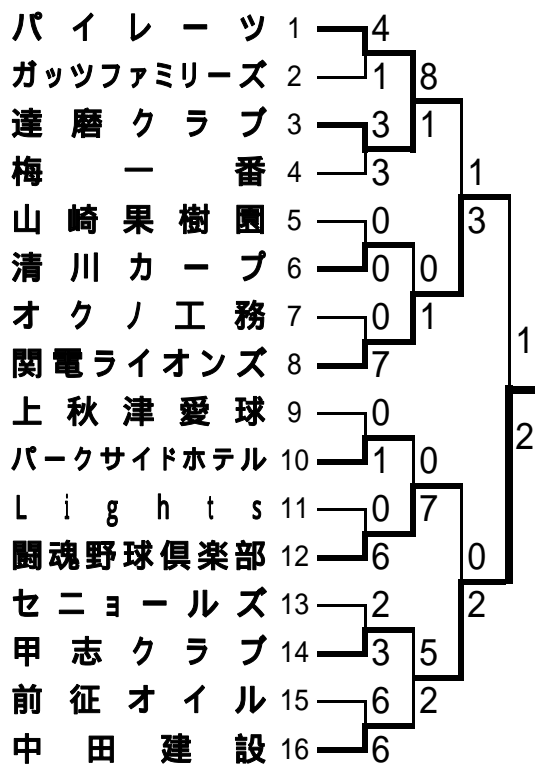
第5回



関電ライオンズ

最優秀選手賞	薦尾佳紀	(関)
打撃賞	畑谷崇	(関)
敢闘賞	山根清志	(ア)
優勝監督賞	福田好巳	(関)

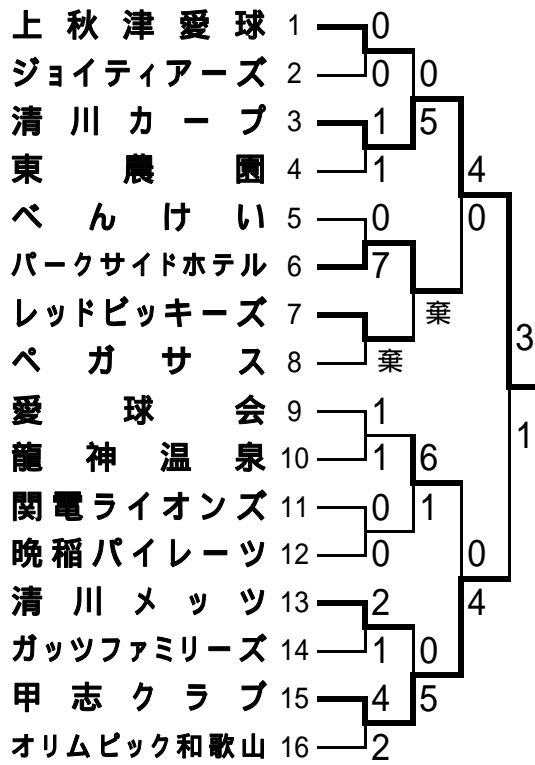
第6回



甲志クラブ

最優秀選手賞	桂木良文	(甲)
打撃賞	玉井淳一	(甲)
敢闘賞	薦尾佳紀	(関)
優勝監督賞	佐武靖志	(甲)

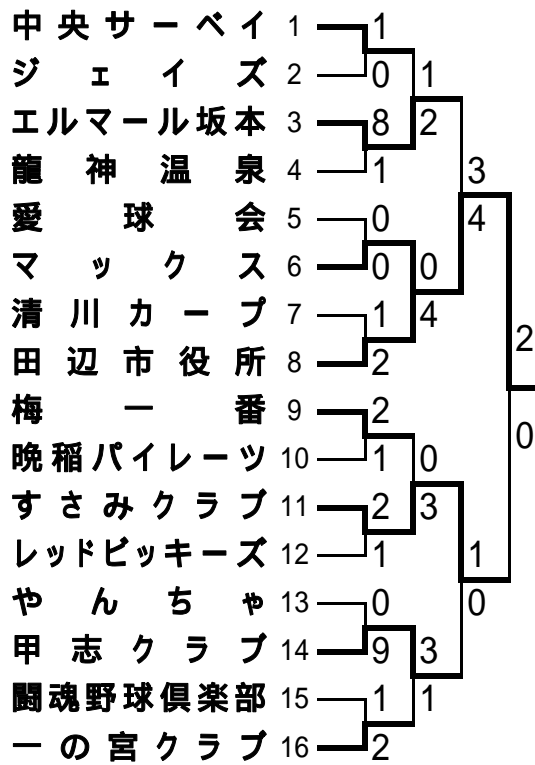
第7回



清川カーブ

最優秀選手賞	中家要次	(清)
打撃賞	山本守	(清)
敢闘賞	山本硬司	(甲)
優勝監督賞	市井芳明	(清)

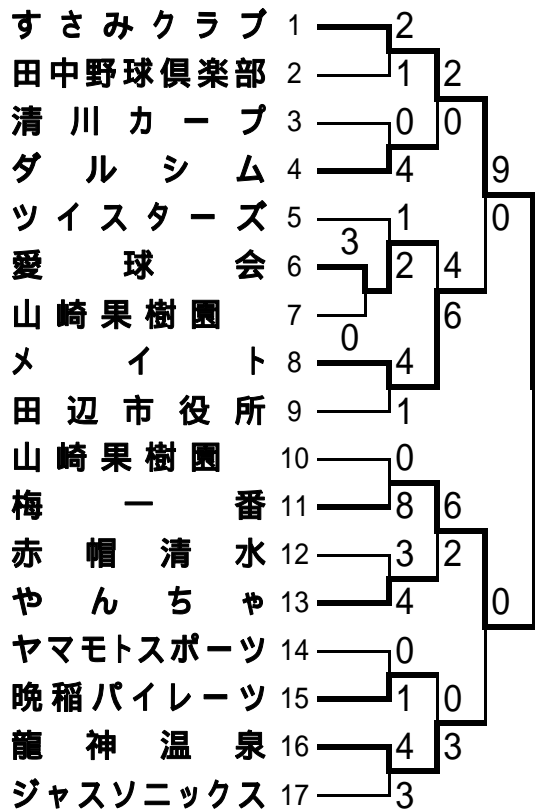
第8回



田辺市役所

最優秀選手賞	上向勝裕	(田)
打撃賞	米田高臣	(田)
敢闘賞	潮崎忠司	(す)
優勝監督賞	宮脇寛和	(田)

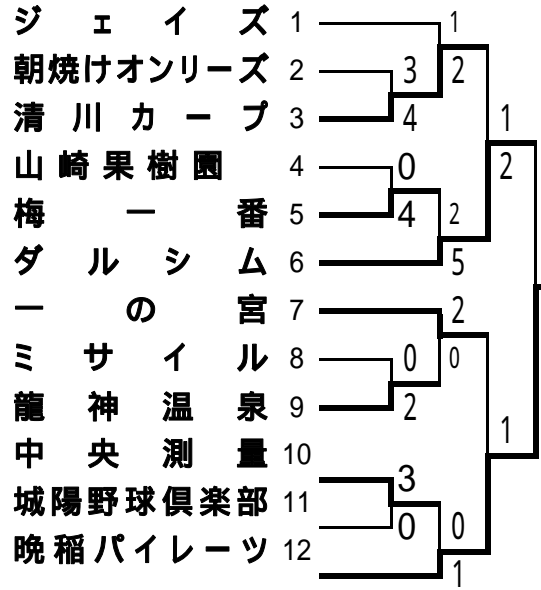
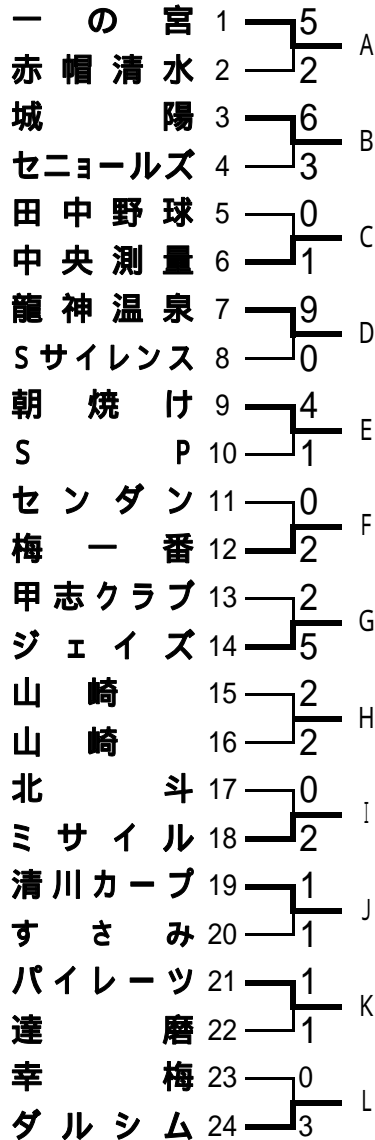
第9回



すさみクラブ

最優秀選手賞	塩崎忠司	(す)
打撃賞	浜中誠也	(す)
敢闘賞	安井宏彰	(梅)
優勝監督賞	君島栄作	(す)

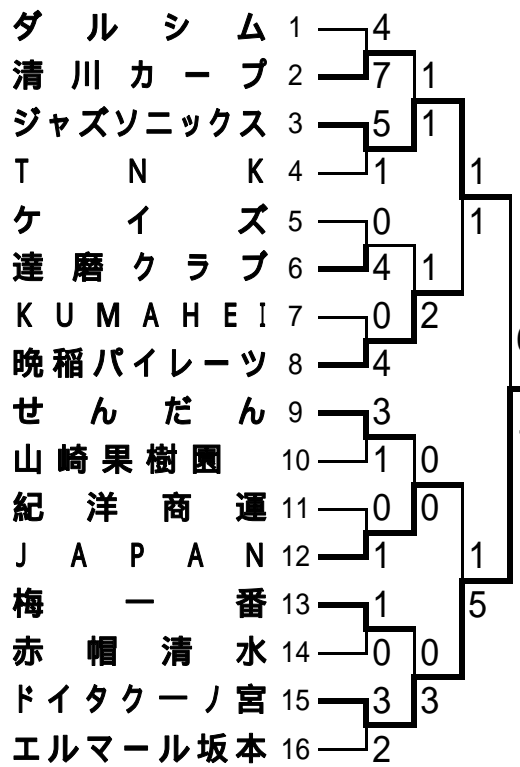
第10回



晩稲パイレーツ

最優秀選手賞	竹中芳美	(晩)
打撃賞	東修司	(晩)
敢闘賞	田ノ岡寛真	(ダ)
優勝監督賞	大西宏	(晩)

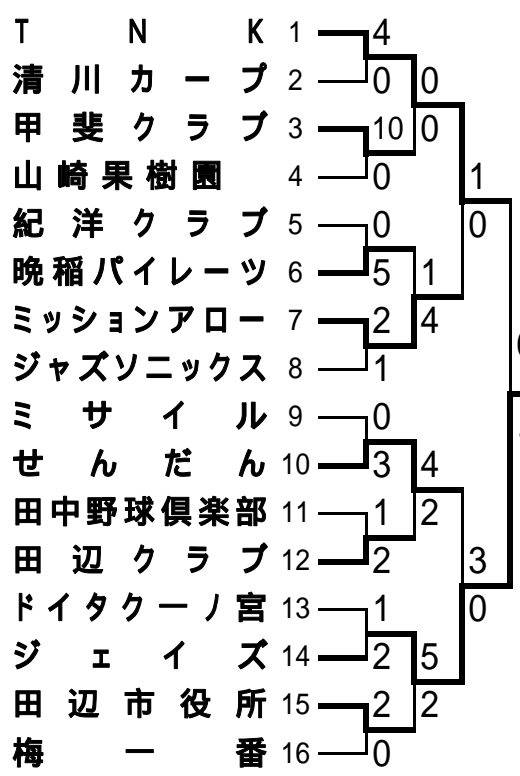
第11回



ドイタクーノ宮

最優秀選手賞	大野守	(—)
打撃賞	植野政実	(—)
敢闘賞	鈴木章司	(シ')
優勝監督賞	久保賢一	(—)

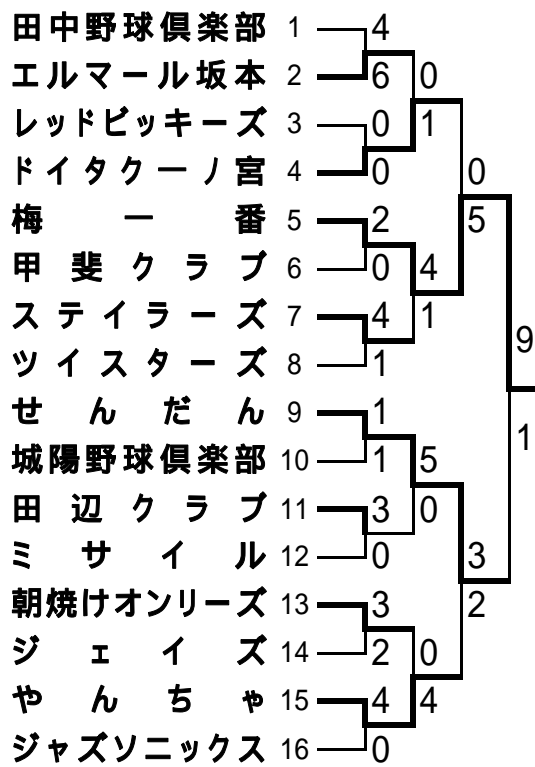
第12回



ジェイズ

最優秀選手賞	鍋屋安則	(シ')
打撃賞	尾崎純二	(シ')
敢闘賞	稲垣佳史	(T)
優勝監督賞	玉田憲輝	(シ')

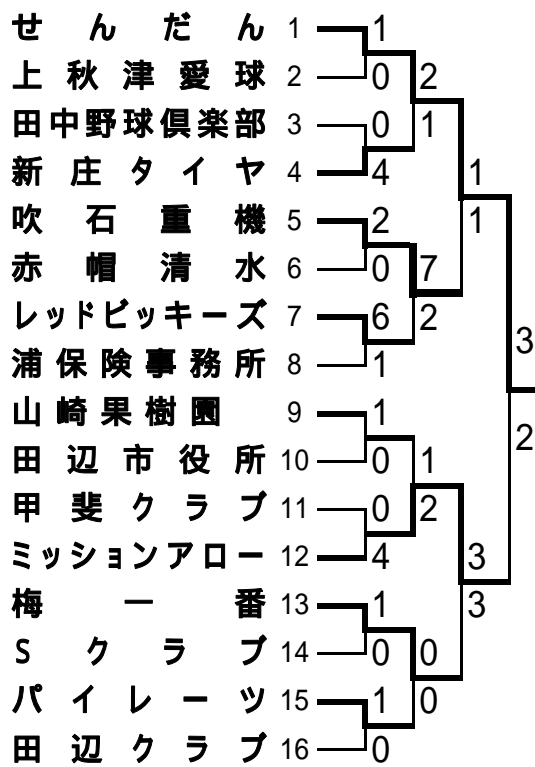
第13回



梅 一 番

最優秀選手賞	岡崎 誠	(梅)
打撃賞	上村 隼	(せ)
敢闘賞	山本 篤史	(梅)
優勝監督賞	和田 佳秀	(梅)

第14回



吹 石 重 機

最優秀選手賞	日置 敦洋	(吹)
打撃賞	永井 良和	(吹)
敢闘賞	倉本 剛行	(ミ)
フェアプレー賞	吹石 伸也	(吹)
和歌山放送賞	山本 篤史	(梅)
	山地 克洋	(せ)

第15回



赤帽清水

最優秀選手賞	池田哲也	(赤)
打撃賞	藤田州生	(赤)
敢闘賞	加藤陽一郎	(新)
フェアプレー賞	新谷紳二	(赤)
和歌山放送賞	岡崎誠	(梅)
	西村毅	(清)

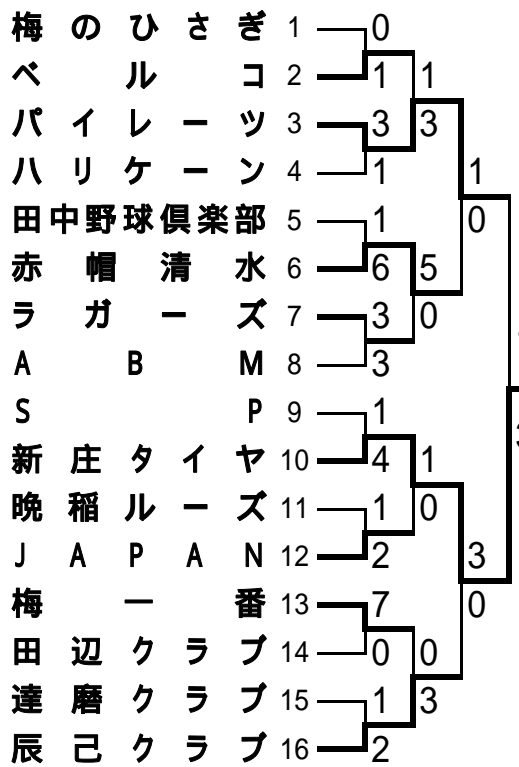
第16回



赤帽清水

最優秀選手賞	白瀧崇也	(赤)
打撃賞	稲垣佳史	(赤)
敢闘賞	大田真次	(シ')
フェアプレー賞	池田哲也	(赤)
和歌山放送賞	三尾宏之	(ハ)
	岩崎晴彦	(ハ')

第17回



新庄タイヤ

最優秀選手賞	新田高将	(新)
打撃賞	越本進男	(バ)
敢闘賞	川辺朋寿	(新)
フェアプレー賞	岩崎晴彦	(バ)
和歌山放送賞	松崎良則	(辰)
	稲垣佳史	(赤)

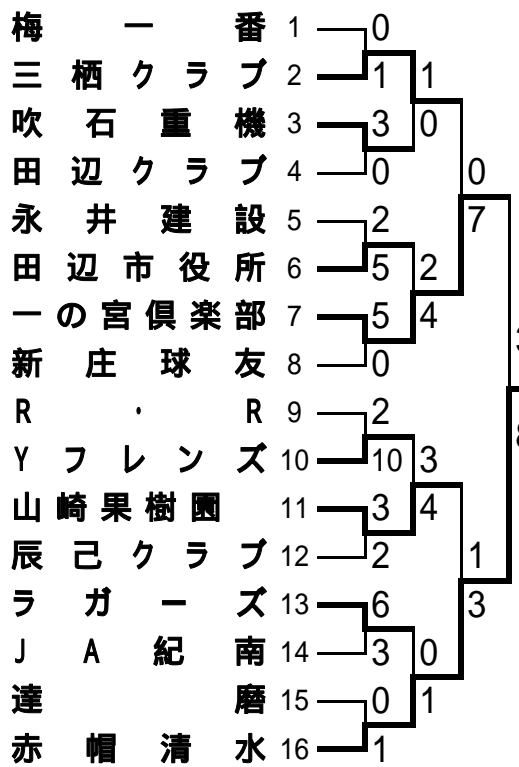
第18回



達磨

最優秀選手賞	森本良太	(達)
打撃賞	岡本将之	(達)
敢闘賞	山本篤史	(梅)
フェアプレー賞	久保良斗	(達)
和歌山放送賞	土井祥裕	(バ)
	戎島敦	(新)

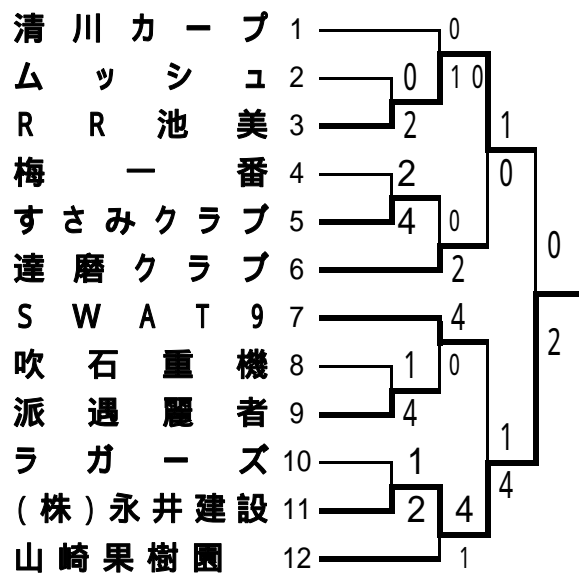
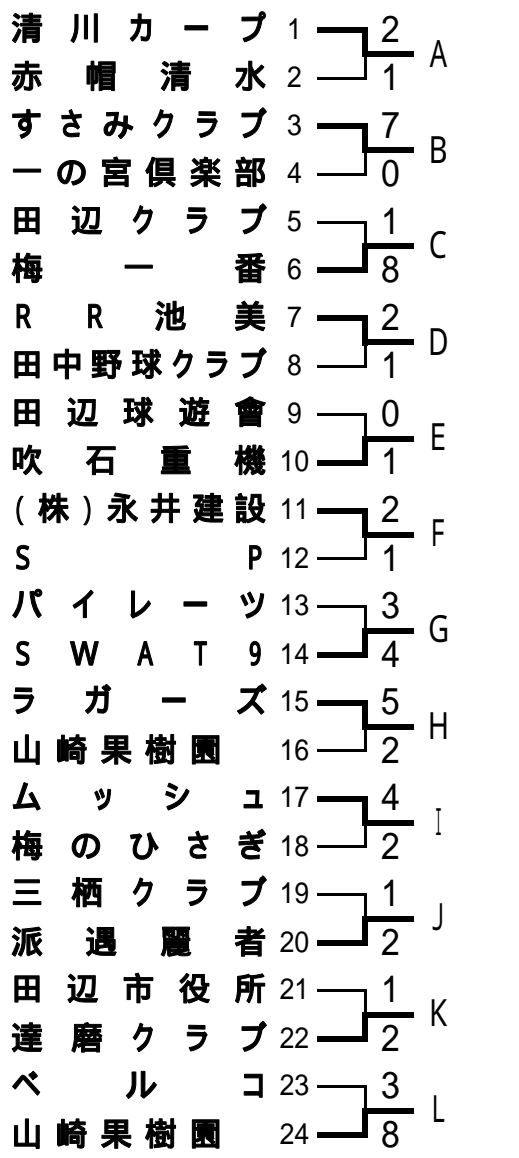
第19回



赤帽清水

最優秀選手賞	池 田 哲 也	(赤)
打 撃 賞	嶋 上 和 希	(赤)
敢 闘 賞	沢 田 和 洋	(一)
フェアプレー賞	愛 瀬 真 司	(赤)
和歌山放送賞	森 大 輔	(三)
	道 上 学	(山)

第20回



(株)永井建設

最優秀選手賞	東 世 志 樹	(永)
打 撃 賞	澤 井 則 幸	(永)
敢 闘 賞	鳥 本 真 也	(R)
フェアプレー賞	中 元 達 也	(R)
和歌山放送賞	森 本 良 太	(達)
和歌山放送賞	大 江 真 範	(S)

清川球場概要



- (1) 名称
清川球場
- (2) 所在地
みなべ町清川1267
- (3) 竣工年月日
平成元年 3 月
照明施設設置
平成 5 年 1 1 月
- (4) グラウンド面積 9,698m²
- (5) グラウンド形状
本塁 中堅 : 108m
本塁 両翼 : 93m